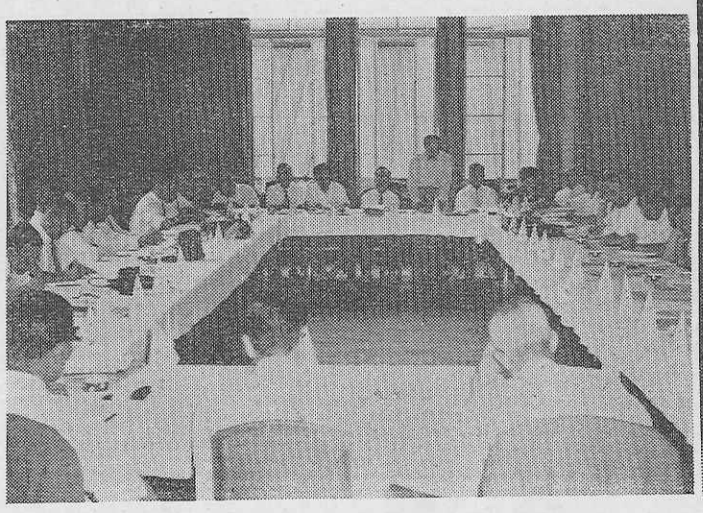
旅と文化

発行所
東京都千代田区
神田神保町2－30
財団法人全国
修学旅行研究協会
電(30)0531・2426
編集兼発行人
永井照

第2回総会開かる

財団事業ここに確立す

全国支部長 事業遂行に総力結集



熱心な討議二日間に亘る

修学旅行は日本の教育上、他の国には見られない歴史と重要な位置をしめている。

本協会は昨年十一月財団法人の認可を機会として、我が国に於ける修学旅行の実態調査を行い、教育上に於ける正しい位置づけとそのあり方を究明して、指導と助言を行つて来た。

一方本協会は昨年の第一回総会の決議に基き、全国支部組織を結成し、現在数県を残すのみにてほとんど完成した。かくて各県支部は各県の修学旅行問題と真剣に取り組み、本協会設立趣旨の完遂に邁進している。本年九月八、九日、東京の茗渓会館、箱根の早雲閣に役員を始め全国支部長など五〇名が参集して第二回総会を盛大に開催、本年度及び来年度の事業に総力を結集することになつた。（写真は総会の第一会場入口と会議場の風景）

第一日 九月八日

第一会場 東京茗渓会館

開会のことばの後、先づ山本理事長の挨拶があり、野崎氏、馬場氏など来賓の祝辞に続いて永井事務局長より東西支部長会議、第三回役員会、機関紙の件、三十三年度研修旅行の実態、研究指定校の件などの業務報告があり、引続き協議に移つた。

第一号議案 組織に関する件

日常活動の推進を行い会員の協力態勢を強化する。この為には会合や文書により会員との密着を図る

次いで支部末設置県の促進をはかり十一月中に組織完了することが決議された。また香川県山川支部長辞任のあと吉田一三氏が新らしく支部長代理として承認された。

第二号議案 旅行部門に関する件

第三回研修旅行実施企画について説明があり、質疑応答は時間の関係で明日の分科会に移された。

ついで修学旅行に関する研究論文募集について及び修学旅行写真作品コンクールについての説明があり、質疑応答の後原案が承認された。

第三号議案 文化部門に関する件

全国学校図書館設備充実運動の協力についての議案が上程 説明され、質疑応答があつてこれも明日の分科会で 十分に検討 の上対策を樹立することとなつた。かくて三時半、予定より時間を繰上げて、第一会場の茗渓会館より一同大型バスに乗り東京都内を横断、第一京浜国道から東海道を通過、途中京浜工業地帯、湘南地帯を研修しながら箱根早雲山の早雲閣の第二会場へ向つた。

第一日 九月九日

第二会場 箱根早雲閣

午前九時より旅行部、文化部の分科会が開催された。

旅行部専門委員会

出席者 委員長村山助雄（常務理事）副委員長河野正夫（理事）委員伊藤喜蔵、宍戸一郎、佐々木二郎、北村三喜、岡田憲一郎、斎藤正太郎、高津彌太、高月辰佳、内田武雄、宮所恒楠、原田五郎、伊佐田甚蔵、宮本吉正、吉田一三、中沢義之、渋谷彦太、田尻貴、（各支部長）山崎正晴（監事）本部 山本理事長、永井事務局長、馬場理事、山本事業部次長

議事 第三回研修旅行実施企画案を重点的に討議し、来年度における研修旅行の時期、日程、コース、費用、募集人員、募集方法等が熱心に討議され、修学旅行に関する研究論文懸賞募集、修学旅行に関する研究論文懸賞募集、修学旅行写真作品コンクールと共に、原案通り承認決定された。

文化部専門委員会

出席者 委員長岡本仁（常務理事）副委員長伊藤収蔵（理事）委員筒井敬治、砂子由次郎、高橋富士男、五味一男、木田喜作、出雲路善尊、吉田重左衛門、吉田新太郎、大西八郎、岡正夫、松田茂良、村上望城、佐枝常一、（各支部長）本部 永井事務局長、藤村組織

討議の結果、原案に関しては全員異議なく了解、今後具体的な資料、文書等の連絡に基き各支部は早急に対策を講ずることを確認した。かして教育の振興に寄与できる今回の全国学校図書館設備充実運動には積極的に協力、運動開始時期を起点として、月毎に運動の成果を挙げることを申し合せた。

午前中で分科会を終了、昼食の後直ちに総会（全体会議）に移つた総会では分科会の報告が旅行部委員長村山氏及文化部委員長岡本氏よりあり、質疑応答の後全部が承認可決された。

次いで理事長より各ブロックの責任者が次の如く決定した旨の報告があつた。

東北—宍戸（山形）関東—岡田（埼玉）北陸—内田（石川）東海—仲沢（岐阜）近畿—吉田（奈良）中国—大西（広島）四国—伊藤（愛媛）九州—村山（福岡）

本部よりの事務連絡が加藤（総務）藤村（組織）山本（事業）よりそれぞれあり、村山常務理事の二日間に亘る熱心な討議に感謝する旨の閉会の辞をもつて、ここに本協会の意義ある第二回総会の二日間の日程が全部終了した。三時半、早雲閣前より再び大型バスに乗つた全員は、途中平塚より江の島の海岸道路を研修しながら七時過ぎ東京駅着一同解散した。

総会に引続き "ブロック会議を開催"

活発な活動を展開す

第二回総会において本年並に来年度事業の基本線が確立、全国支部長の本協会事業の遂行に総力を挙げて邁進することを誓つた翌月、全国を五ブロック（東北、関東、九州、中国四国、近畿東海北陸）に分けてそれぞれ各地の会場に関係ブロックの支部長が参集して、事業の具体的実施方法につき熱心な協議会が持たれた。本部からは山本理事長、永井事務局長、馬場理事、藤村組織、山本事業などが各会場に行き会議の結果、三十四年度研修旅行の件、三十三年度研究指定校研究発表の件全国学校図書館設備充実運動協力に関する件などの具体的事項が決定され直ちに活動を開始した。

（上）京浜工業地帯を研修しながら第二会場箱根に向うバス車中風景

（下）二日間の会議日程を全部終了して第二会場箱根早雲閣前に勢揃いした全国支部長

関東ブロック会議

日時 十月九日 十一時半—五時
場所 東京 全修協本部会議室
出席者 （各支部長）北村三喜（群馬）斎藤正太郎（神奈川）高津彌太（長野代理）大木一（千葉代理）田中柳之助（埼玉代理）長野学生協専務篠田氏（本部）山本理事長、永井事務局長、馬場理事加藤総務、藤村組織、山本事業。

会議 支部長が事故のため欠席したので午前中は懇談形式で、午後から会議形式にて会議を進めた。加藤総務部長の開会のことばに続き山本理事長の挨拶があり、永井事務局長が経過報告を行つた。

第一号議案 三十四年度研修旅行の件、日程、コース等の説明の後詳細な各県毎の打合せを行つた。

第二号議案 三十三年度修旅研究指定校研究発表会の件、実施要項の説明の後、関東ブロックでは東京都立鷺宮高校にて二月下旬全国的集会の規模で研究発表会を行うことに決定した。

第三号議案 学校図書館設備充実運動の件、経過報告の後、今後の活動の方法が種々検討され実施策を決定した。

東北ブロック会議

日時 十月十日十五時より十一日十時三十分まで
場所 福島飯坂温泉 吾妻荘
出席者 （各支部長）氏家義之（福島）高橋富士男（宮城）宍戸一郎（山形）梅津正雄（秋田代理）伊藤喜蔵（青森代理）沼倉重雄（北海道代理）後藤信一（山形学生協）（本部）山本理事長、永井事務局長、山本事業。

会議 永井局長の開会のことばの後、理事長の挨拶があり、経過報告があつて協議に移つた。

第一号議案 三十三年度修旅研究指定校研究発表会の件、理事長から発表の期日を地方の行事と合致させ関連するように考慮してほしいとの希望があり、野田中校長寺島氏の挨拶の後、種々の打合せに移つた。

第二号議案 三十四年度研修旅行の件、日程、コース、費用等について説明があり質疑に入り、ポスター、趣意書、募集人員、募集方法等を具体的に決定した。翌十一日午前九時より再び会議を続行した。

第三号議案 学校図書館設備充実運動の件、永井局長の経過説明の後、この運動の推進方法の具体的実施策を種々検討してそれぞれ決定可決し、十時半二日間に亘る東北ブロック会議は終了した。

九州ブロック会議

日時 十月十三日十時より十七時
場所 別府市 豊泉荘
出席者 （各支部長）村山助雄（福岡）田尻一雄（大分）村上望城（熊本）田尻貴（宮崎）佐枝常一（鹿児島）松田（佐賀代理）長崎県は代理者出席、研究指定校鴨池中学校中島教頭（本部）山本理事長、永井事務局長。

会議は豊泉荘の庭園中にある離れ茶寮において開催された。

永井事務局長の開会のことばに続き理事長の挨拶があり、経過報告を永井局長が行つて第二号議案の研究指定校の発表について協議に入つた。

鴨池中は修旅について長年に亘つて研究している学校との由にて、参加者一同は同校の修旅研究発表の成果に非常な期待を持つて会議を進めていつた。

第一号議案 来年度の研修旅行の件が協議された。宮崎県は都城から門司まで小口輸送に決り、その他申込金や募集方法などが具体的に決定され実行に移されることになつた。

第三号議案 図書館設備充実運動については、中間報告を明確にすることが決つた。

その他、旅と文化の発送を早くすること、作文図画の指導助言などの要望があつて会は終了した。

中国四国ブロック会議

日時 十月十五日十時より十七時
場所 山口湯田温泉 山泉荘（教職員寮）
出席者 （各支部長）宮本吉正（山口）伊佐田甚蔵（鳥取）杉原石郎（岡山）吉田一三（香川）中沢義之（高知）伊藤収蔵（愛媛）岡正夫（徳島）広島、島根は欠席

研究指定校山口中央高校青木進教諭、松山市立御幸中学校由井大助教諭（本部）山本理事長、永井事務局長、馬場理事。

会議は永井事務局長の開会のことばに始り、理事長が全修協本来の事業目的である修旅の研究を進めるため本ブロックでは特に研究指定校の代表者の参集を願つたので研究発表会について活発な討議を願う旨の挨拶があり、自己紹介、経過報告の後協議に入つた。

第二号議案 三十三年度修旅研究指定校の件御幸中学校では発表の時期を二月下旬の平日をそれぞれ希望された山口中央高校の研究テーマは「各教科との関連に基いた修学旅行のコースおよび見学地の選定について」と訂正された。なお発表会当日はブロック各県の支部長も参加することになつている。

第一号議案 三十四年度研修旅行の件は全修協の主体性において行い、引卒責任者を乗せる事にしたその他ポスター趣意書、締切日申込金等について協議した。次いで

第三号議案 図書館設備充実運動協力については、総会の決定に基き運動を進めてゆく事になつた。

近畿東海北陸ブロック会議

日時 十月十七日十一時—十七時
場所 大阪市 浪速荘
出席者 （各支部長）石川為蔵（大阪）岡本仁（兵庫）吉田 新太郎（奈良）宮所恒楠（和歌山）垣見甚一郎（滋賀）宮本秀吉（愛知）仲沢倹次郎（岐阜）佐伯盛吉（島根）京都は武田氏代理、大阪原田氏、研究指定校 若草中 中村校長（本部）山本理事長、馬場理事、藤村組織。

会議は藤村組織部長の開会のことばの後支部長と若草中学校長中村信一氏を紹介、理事長の挨拶があつて協議に移つた。

第二号議案 研究指定校研究発表会に関する件、中村校長より研究発表会の具体的実施方法についての説明があり質疑応答に入つた。

第一号議案 三十四年度研修旅行に関する件、熱心な討議が行われ近畿にて北海道二本九州一本の臨時列車を出す線が打出された。申込金も千円に決定した。次いで第三号議案の協議に入り種々応答の後原案通り決定した。五時過ぎ終了ビールにて乾杯の上散会した。

北海道 九州 教育研修旅行特集

〝ほんとによかつた〟

宮崎縣上江小学校長　副団長　池江末利

新卒当時、県のある教育部長が教師は大いに見聞を広めてほしいといつたことがあるが特に社会科等の教科ではその感を深くする。南国に生を享けた者として北海道を憧れるのは当然のことであるが、また教師という職業からも各地を旅行して見聞を広めることは本当に大事なことである。この意味で今回全修協の企画と御尽力とによつて、本県では第一回の北海道研修旅行が実施されたことは極めて有意義なことであり、参加させてもらつた一人として深く感謝する次第である。

十五泊（夜行七、旅館八）十六日の長途の旅行ではあつたが、門司からは臨時列車であり、また職業とはいえ近畿日本ツーリストの若い職員の方々の極めて懇切な献身的活動によつて、寝ながらの楽な汽車やバスの旅ができ、個人旅行などで味わうような疲労や嫌な思いは殆んど感じないで済んだことは有難いことであつた。旅館も特に北海道に於てはよく選定され、大体満足する温泉旅館であつたことは乗物と同様旅行を楽しいものにする第一条件であるだけに何よりも嬉しい限りであつた。

約十日間に亘り初めて見る異国情緒豊かな北海道の風物に対する感激については、拙劣な表現力を以ては如何ともすることはできないが、青函連絡船上から見る紺碧の海、函館山からの景観、東洋一を誇る登別の大浴場、アイヌ人に対する新たな認識、蝦夷富士の姿こそ見えなかつたが鏡のような洞爺湖上の遊覧、異彩を放つ昭和新山眼下にオホーツク海を臨む原生花園一帯の優雅な展望、神秘な摩周湖の青さ、千古斧鉞（えつ）を許さない原始林の樹々、伝説を秘めたマリモの阿寒湖、挽歌の街釧路大雪山を背景に奇勝を天下に誇る層雲峡、山紫水明の別天地定山渓温泉、エキゾチックな札幌の市街等々、旅の跡を顧れば伝説と自然と文化と相交錯する北海道の風物や産業が眼前に展開されてくるのを覚える。その中のどの一つをとつても唯平凡な言葉で「ほんとによかつた」という以外の言葉を知らない。少くとも一生に一度は行くところと推奨するのみである。

今回の旅行で感じたことは、九州全体で四百余名参加した中、婦人がその半数以上を占めていた事で成程この種の旅行は女性の為に本当に適していると思つた。

尚、この際公表しておきたいことは、本県参加者六二名の皆さんが実に立派な団体行動をとられたことである。或駅長は今までにかつてない整然たる団体であつたと激賞するし、隣県の団長は別れに際し、宮崎県団の紳士的行動に態々謝辞を述べて行つた程であつた。

最後に今回の旅行実施に当つて、田尻支部長や互助会職員各位の御奉仕に対し深甚の謝意を表する次第である。

摩周の水澄める

石川県金沢市十一屋町小学校　岡本淑子

北海道と言うと、私の頭の中にまつ先にうかんでくるのは、広々とした緑の原野を走るまつ黒な汽車、そして、その原野のまん中を砂塵を上げて走るバスの直線道路です。

広漠たる緑の原野も、あふれる温泉も住として、それにもまさる偉大な美しさは湖でした。

洞爺、屈斜路、阿寒、摩周湖の各々の持つ美しさにうたれ、とりわけ摩周湖の神秘さには魂をうばわれるような深さを感じました。

みどり濃き摩周の湖の百合清し

伝説を秘めて摩周の水澄める

白樺の揺れ摩周湖秋の水

旅中雑吟

（修道院）

ミサ中は閉ざしあるまま法師蟬

（函館）

花合歓の函館山や五陵郭

（川湯温泉）

忍び来る旅愁の川湯銀河濃し

（層雲峡）

歌声はピリカメノコの星の夜

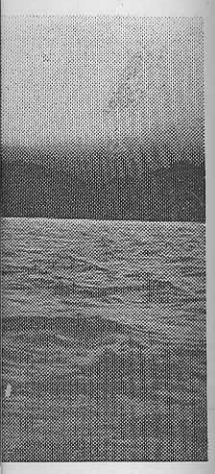
（阿寒湖畔）

屯田の父の故郷墓洗う

秋水の阿寒川沿いいく曲り

「オオワンダフル」

埼玉県熊谷石原小学校　吉州寛哉



天勝清水

層雲峡、アカシヤ並木に時計台の札幌市、北大や夜の函館公園、熊を上手にほるアイヌと可愛い熊の子とつぎつぎと走馬灯の様に思いはさいはての地にかけて廻ります。それに行く先々に温泉は私達を待つてくれていました。男女混浴に驚いて取る物も取らず飛び出してきた思い出もなつかしくバスガイドに習つたサビタの花や、そらん節、まりもの歌など歌い続けて、ぶじ十五日の楽しい旅は終りました。

私なりに

東京都学習院初等科　山口正重

北海道研修旅行が終つてから約二月は経過した。時の流れは、豊富な旅の想い出の中から、印象の純粋なもの、強烈なものをのみすくいあげてくれる。

思いつくままに書き挙げると

○空の色、海の色、なまり色のオホーツク海

○旅愁をとことんまでゆする涛沿

湖畔の野草……

……私の走馬灯は、ふと止まつた。釧路平原……そうだ。

黄色いギンボウの花に囲まれた粗末な家屋、寒気にとりひしがれたような痩耕地、道端で遊ぶ子の貧しい身なり。それは半年を冬で過さねばならぬ文化に遠い原始北海道の姿だ。

推薦　愛嬌もの熊さん　群馬県原市小　青柳朝治

旅は娯しく

山形県　高橋俊一

今夏全修協主催の北海道教育見学旅行に参加して、私は大へんよかつたと思う。天気が好適であつたことがこの旅行をたのしくさせた原因の一つだが、主催者側の計画が綿密であり、係りの人々の現場に於ける心配りが、至極親切であつたことが私共を愉快にさせた。

汽車やバスそれから旅館も同じ県人であると言う気安さがあつて、みんなが、とても協調的でそして態度が大人であつた。汽車やバスの坐席はお互にゆずり合つてくれたし、旅館の室の割当などについても、一向不平を言つたりしなかつた。深夜まで酒を飲んで高唱放談して迷惑をかけるなどという人はいなかつたし、観光バスのガイドが、たとえ、唄は下手でも、みんな拍手して若い娘であるガイドをはずかしめるようなことは一度だつてなかつた。きめられた時間をよく守つて、バスの出発をおくらすようなこともなく団体旅行の作法を模範的にやつてくれた。〃旅はたのしくあるべきもの〃同行のこうした良識が、旅の後味を全くよいものにしたと思う。駅弁や食堂の食事に色々と変化をつけたり湯茶の供給が円滑であつたり、旅の果をその場所々々で配つたり、車内放送で落度なく連絡したり、全く快適な旅行であつた。

費用は少々高いなどという、別の旅行業者の批判もきいてはいるが、旅館も一流どころで待遇は良く、見学のもであつた。費用は少し位かさんでも、知らぬ他境の旅はたのしくするのがいいのでないかと思う全修協の催しを賞讃して止まない。私は退職教員の一老人である（山形教育用品会社長）

然し瞳をさらに凝らそう。そこには絶えざる開拓の息吹きが感ぜられる。延々たる自動車道路、建設予定の飛行場、排水用の側溝、草を食む牛馬の群れ、製紙工場建設の槌音……大阿寒の観光地として、農地改良による穀倉地、酪農地として、また第二次産業発展の地として無限の夢をのせて、横へと展開されているのだ。

十年後、二十年後の釧路平原に私は再度渡道の大きな夢をかけている。

北海道の原野と街

東京都足立第四中学校　内田弘

我々都会生活者が常に抱いている夢、それは我々人間の故郷ともいうべき大自然に接することではないかと思う。巧まざる神々によつて造られた厳粛で、しかも神秘的な自然の美、そしてそれを開拓しつつある力強い人工的な美それらが到る所に散在している所、そこでは我々の郷愁を充分に満たしてくれる。それが北海道ではなかろうか。その北海道への旅は我々に与えられた最大の夢なのである

【原野】釧路原野は関東平野を原野にした位に広い。ここは北海道らしさの最たるものではないかと思う。

室蘭本線の沿線は面積は狭く長い所であるが、その荒涼たる姿はむしろ釧路原野以上のものがある海岸の故か牧畜にさえも適さないと見え、荒れ果てた苫屋に漁師の住居を認められるのが惨として声が出ない。

【街】最後に人工の美であるが、札幌の市街がこれにあたるだろう勿論人工の美といつてもそれは自然と渾然一致した所のものである整然と区画された市街地、駅前通りのアカシヤ並木。それは古木で幹も太く枝も多く、濃い蔭を歩道に落している。鈴をつけた馬車でそこを通ればそれだけで詩になる台風のない街にふさわしい並木の景色である。

◇　◇　◇

感想

宮城県塩釜第一中学校　阿部藤之進　渡辺秀幸

第七班、東北地区新潟を含む七県、三五二名が、八月六日より十六日まで予定のコースを無事終えて所期の目的を十分に達したことは喜びにたえない。しかも、旅行期間中天候に恵まれ、かつ、近畿日本ツーリストの至れり尽せりのサービスによつて始終たのしく旅行を続けることの出来た事を感謝している。

われわれの学校では昨年も北海道旅行を計画したが事情があつて実行をすることが出来ず、残念に思つていた所、本年念願叶つて参加することが出来満足している。北海道の印象は何といつても、山と湖、それに温泉であろう。

洞爺湖と昭和新山、摩周湖と摩周岳、阿寒湖と阿寒岳、大沼公園と駒ケ岳、層雲峡の大小の滝美幌峠と屈斜路湖等、その雄大、神秘さ、奇岩の絶景には眼を見はるものがある。

温泉も登別、定山渓をはじめ、湯量の豊富、多種類の泉質、旅館の設備の優秀等、何れも旅を楽しませるに充分であつた。

只残念なことは阿寒のマリモを見ることが出来なかつたことだ。

第二回研修旅行参加者の声

（　）内の数字はアンケート回答数

一、この研修旅行の企画について
○毎年継続してやつてほしい（一一二）
○隔年毎にやつてほしい（九五八）
○道内コースを少なくする（二四九）
○十和田湖を加える（三六七）
○十和田湖を除く（七〇七）
○瀬戸内コースを加える（一五三）
○瀬戸内コースを除く（二六）
○九州コースを少くする（一六）

二、募集方法について
○宣伝が足りない（五〇五）
○現行でよい（四一五）
○もつと早く募集せよ（三三一）
○教員組合を通した方がよい（四〇四）
○校長会を通した方がよい（三六三）
○その他の団体を通した方がよい（一四九）
○全修協支部でよい（一九八）

三、旅費について
○一二〇、〇〇〇円前後（四一）
○一五、〇〇〇円前後（二四三）
○一〇、〇〇〇円前後（七一一）
○一五、〇〇〇円前後（二八九）

四、旅費の払込方法について
○積立方式がよい 12回（二七六）
○3回（三〇）10回（四二一）8回（一八）6回（八一）
○一時払でよい（三六四）

五、実施時期について
○七月下旬（一三七）
○八月上旬（四六三）
○八月下旬（二六）
○七月下旬—八月上旬（四六三）
○八月上旬—八月中旬（六九）
○八月中旬—八月下旬（一〇八）

六、日程について
○六泊七日（五〇）
○七泊八日（八八）
○八泊九日（五五）
○九泊十日（一六八）
○十泊十一日（一四〇）
○十一泊十二日（一四六）
○十一泊以上（四六五）

七、コースについて
○今回のコースについて良かつた（六九六）
○次の箇所を入れてほしい
大雪山（七）平泉（一五）松島（三七）炭坑見学（一四）
鵜戸神宮（二三）礼文島（七）苫小牧（八）霧島公園（七一）
小樽（八九）稚内（一九）耶馬渓（八〇）日南海岸（一八）
○次の箇所を除いてほしい
定山渓（一三〇）浅虫（一〇八）十和田湖（四七）
札幌ビール（一一九）

八、交通機関の批判
普通（五〇八）悪かつた（一四）
良かつた（六五一）国鉄
悪かつた（一六〇）連絡船（四二二）
（一三三）（六一三）
（一三六）バス（六一七）
（五九二）
（七三）船（三八二）
（五九八）
（一〇五）

九、添乗員について
○良かつた（八六八）○普通（三九二）○悪かつた（三二）

一〇、主な見学地について

	九州	北海道
見学地	月寒羊博場	湯の川館
非常に役立つた	一二三四五七四	一二一五一一二九四二三
良かつた	一一一一一二三一五一一一二	一一二五一一一一一一一一
参考程度	一三三一三三一四	一一一四三二二四二一一一
普通	一一一一四三二二四二一一一	一一一一一一一一一一一一
参考にならない	一一四二一四八九	二二二二一一一一一一一一
悪かつた	四一八八四六〇六	一一一一一一一一一一一一

一一、旅館への批判

	九州	北海道
宿へ着く時間	雪仙島峡屈溪湖川館	鹿児島市温泉 別府温泉 浅虫温泉 層雲峡温泉 川湯温泉 弟子屈温泉 山別温泉 登別温泉 洞爺湖温泉 湯の川温泉
宿を出る時間	内放送	医療放送
食事	弁当	食事
車内	良かつた	良かつた
医療	良かつた	良かつた
弁当	良かつた	良かつた

一二、その他

	九州	北海道
宿	太宰府 西海市 別府市 長崎 桜島 青蘇 阿部 山口 ア小学校 イヌ講演 層雲峡 北海道博物館 雪印工場 ビール工場 室蘭製鋼所	
車	良かつた	良かつた
医	良かつた	良かつた
弁	良かつた	良かつた
内	良かつた	良かつた
療	良かつた	良かつた
放	良かつた	良かつた
送	良かつた	良かつた
班	良かつた	良かつた
事	良かつた	良かつた
当	良かつた	良かつた